

神奈川県内広域水道企業団広報誌

みずき 便り

2009年1月 創刊号



創刊
特集

いつも飲んでる水道水は どこの水？

もちろん、暮らしている街の水道局から。でも、その先は…？



神奈川県内広域水道企業団
企業長

尾高 暉重

40周年は新たなスタートの年

生活に欠かせない大切な「水」を、県民・市民に供給している神奈川県内広域水道企業団（水道企業団）は、今年40周年を迎えます。40周年を記念して、水道企業団の広報誌「みずき便り」を創刊しました。創刊にあたり、尾高暉重企業長にお話を聞きました。

—かながわの水道事情について

神奈川県は国内においても極めて水源に恵まれた土地柄です。県内には「丹沢湖」をはじめ大小5つの水源となるダム湖がありますし、また酒匂川、相模川という大きな川があるなど水道事情には大変恵まれた環境にあります。この豊富な水資源と環境を広域的に有効活用するため、私ども水道企業団が設立されたわけです。

昨年末、安定給水に結びつく施設整備事業が40年の歳月をかけようやく完成しました。

これにより、安全・安心と合わせまして、県民・市民の皆様の豊かな生活を支える基盤が一応整備されたと思います。

—「水」に関わるエピソード

話は変わりますが、私は過去に県に在籍し数年間の海外赴任経験があります。赴任先の国は、日本と比較して「水」に関して環境があまりよくありませんでしたので、「水」を蛇口から直接口にすることはありませんでした。

日本に帰国した際、いつでもどこでも安心して「水」が飲める環境と日本の水道技術の高さに、改めて感心させられ、またありがたさも実感しました。

—創設40周年を迎え将来に向けての抱負をお聞かせください

おかげさまで、当企業団も今年の5月に設立から40周年を迎えます。

この40年間は新たな水源確保と施設整備のための大規模な建設事業を中心としてきましたが、県内の広域水道を担う団体として発展してこられましたのも、水源地域や河川流域の皆様をはじめ多くの方々のご理解、ご協力、また神奈川県内広域水道企業団議会のご指導によるものであります。改めて感謝申し上げます。

40周年の今年は、企業団としても様々な変化に対応していく新たなスタートとして、10年後の50周年に向けた「安全・安心」、「環境保全」への対策と「経営基盤の強化」を柱とした次世代の水道企業団を目指す年となります。

水道企業団をはじめ水道界を取り巻く情勢の変化を敏感に察知して、常に足下を見直しながら迅速に対応することが特別地方公共団体である当企業団の責務であります。

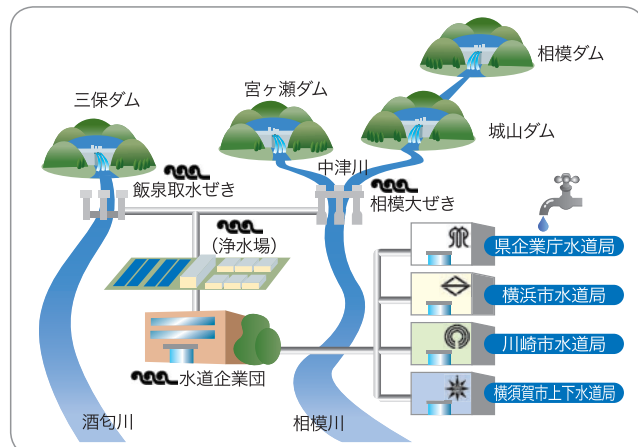
これからも職員共々、一丸となって与えられた使命をしっかりと果たせるよう、様々な取り組みにチャレンジしてまいりたいと考えております。

神奈川県内広域水道企業団のご紹介

将来の水需要の増加に対応するため昭和44年、神奈川県をはじめ横浜市、川崎市、横須賀市が構成団体となった「特別地方公共団体」として、神奈川県内広域水道企業団（水道企業団）は誕生しました。

水道企業団は相模川・酒匂川で取水した水を県内4ヵ所の浄水場で水道水にしており、各構成団体の水道局で作られる水道水に、水道企業団の水道水をブレンドして、各家庭に届けています。

平成19年度に水道企業団が供給した水道水は、約5億5千万㎡です。これは構成団体を通じて、家庭に届けられた水道水の約52%に相当します。



いつも飲んでる水道水は どこの水？

24時間いつでも、蛇口をひねると当たり前のように出てくる水道の水。
朝起きてから夜眠るまで、水道のない生活なんて想像できません。
神奈川で暮らす私たちの毎日の生活に必要な「水」。その源はどこかご存知でしょうか。

ダム湖に貯められた湧き水



水の道を辿って「ふるさと」を訪ねてみると、丹沢山系や、さらには遠く、山梨県の富士山の麓に着きます。

山々に降った雨水の多くは、やがて川の流れとなり、神奈川県の中央部を流れる相模川と、県西部を流れる酒匂川の上流域へと至ります。

相模川の上流には、宮ヶ瀬湖をはじめとした4つのダム湖（人工湖）があり、酒匂川上流には同様に丹沢湖があります。

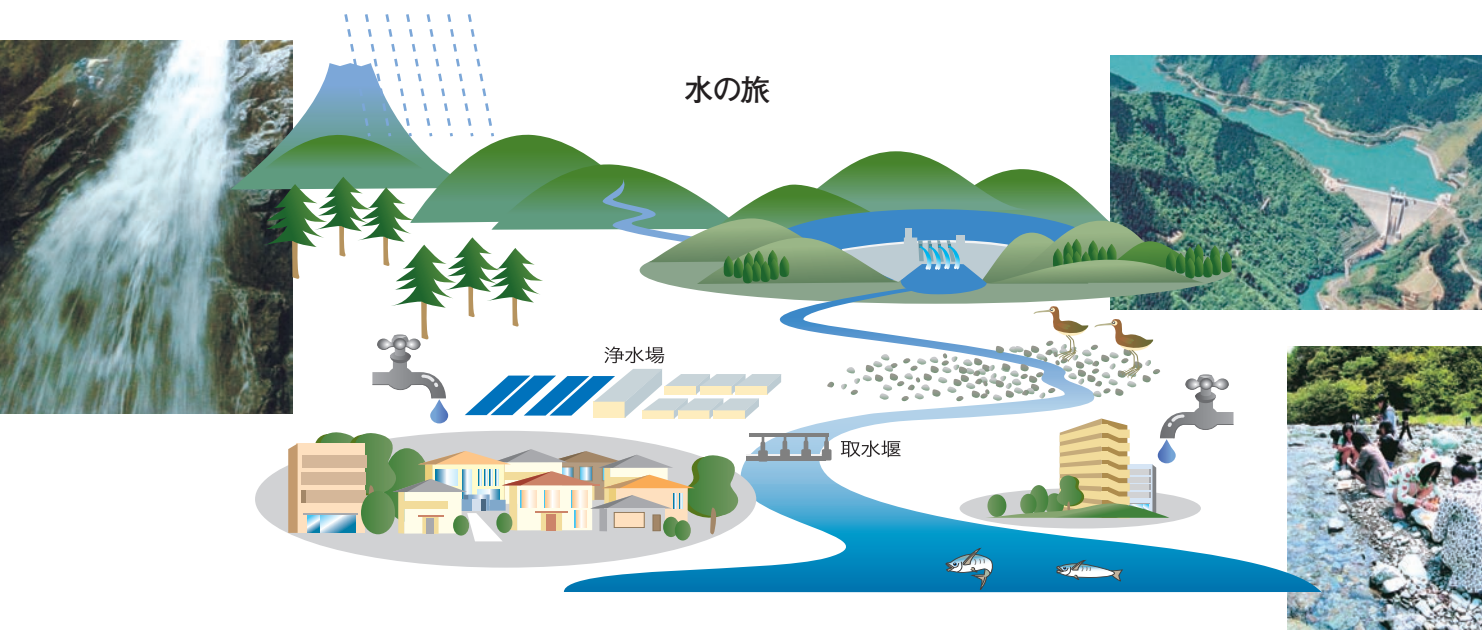
富士山麓や丹沢山系から湧き出た水は、これらダム湖で貯められ、「かながわの水がめ」として重要な水源となります。

ダムから計画的に流された水は下流で取水され、水道水



になるために浄水場へと送られます。

また、このほかに水道水には、潤沢な湧き水を水源としているものや、地下水を汲み上げて水源としているものもあります。



水に恵まれた“かながわ”

かながわに暮らす私たちが使う「水」。県内の水源で全てまかなわれていることをご存知ですか？

これは、大都市や有数の産業地帯を抱える県としては、全国的にも大変めずらしいことです。皆さんの中には、水道の「水」はダム湖の「水」を直接浄水したものだと思っている方がいませんか。

実はそのほとんどが、生活圏を通ってきた川の水を下流で取水したものなのです。だからこそ、川はみんなの貴重な宝物として、皆さんと共に守り続けていきたいと思えます。

酒匂川の「水」

富士山東麓と箱根外輪山に源流を持つ神奈川県西部を流れる「酒匂川」。

小田原市内にある飯泉取水ぜきで取り込んだ「水」を、高田浄水場(小田原市高田)、伊勢原浄水場、相模原浄水場、西長沢浄水場(川崎市宮前区)で浄水して、遠くは川崎にまで水道水をお届けしています。

相模川の「水」

富士山北麓の忍野八海を源流として神奈川県央部を流れる「相模川」。

ダム湖周辺の上流域で取り込んだ「水」は、周辺地域や横浜、川崎へ、厚木市と海老名市にまたがる相模大ぜきや、寒川町にある寒川取水ぜきで取り込んだ「水」は、綾瀬浄水場、寒川浄水場、小雀浄水場(横浜市栄区)、有馬浄水場(海老名市中河内)を経由して遠くは横須賀・三浦方面にまで水道水をお届けしています。

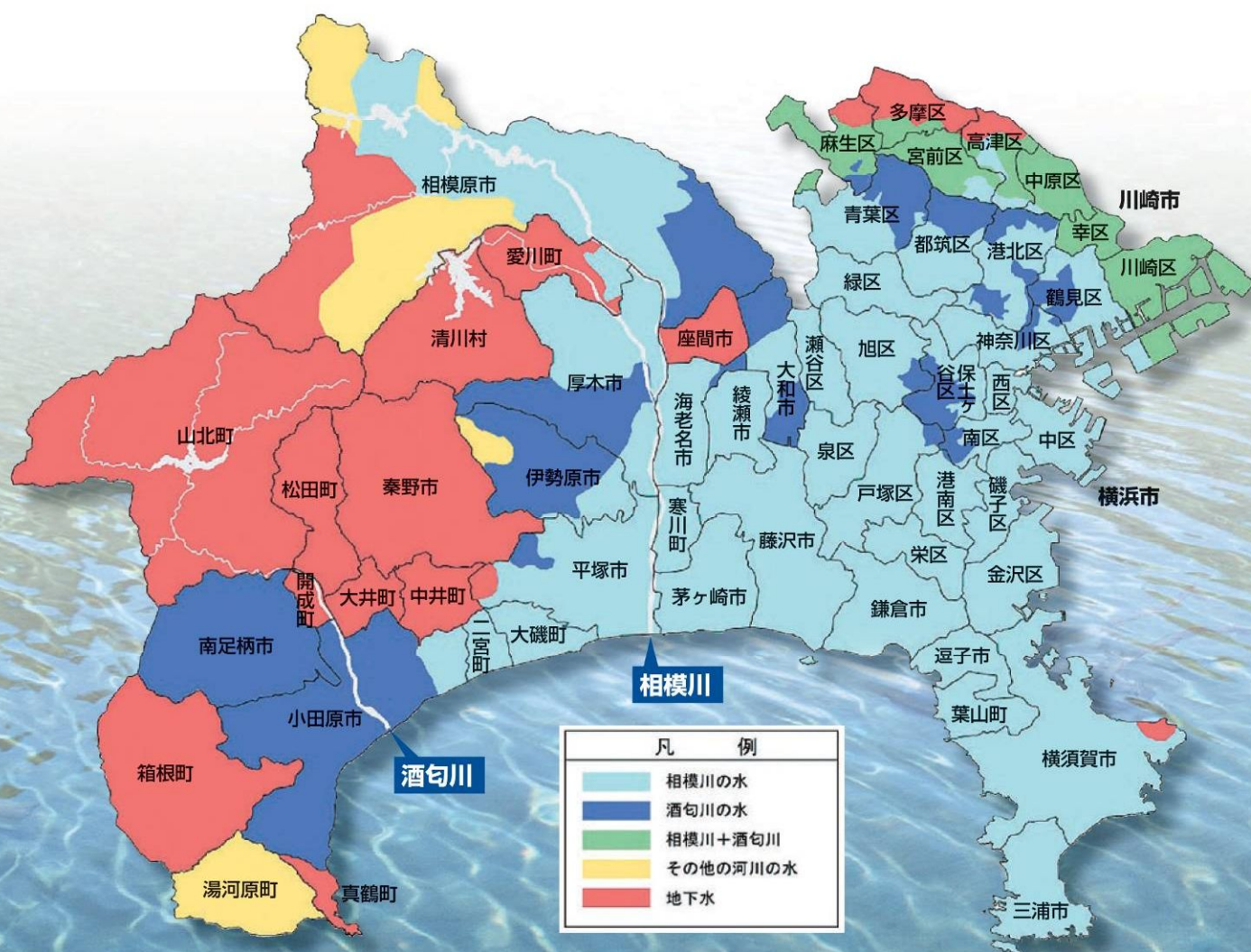


いつも飲んでも
水道水は
どこの水？

地下水

その他河川の「水」(県西部)

山岳地を多く抱える県西部の多くは、人口密度が比較的低く変動も少ないエリアですので、地下水を利用した簡易水道等を整備して需要がまかなわれています。



(※実際には他水源の水がブレンドされている場合がありますが、わかりやすく単純化しています。)

《連載》蛇口に**水**が届くまで…

空から降った雨が川の流れとなり、やがて水道水に生まれ変わって、
皆様のご家庭に届くまで。長い水の旅を、順を追ってご紹介します。

①ダム(水源)

「かながわの水がめ」としての役割

神奈川県には、相模川と酒匂川の上流山間部に幾つものダムと、ダムによって生まれた人工の湖があります。

これらのダムの最も大切な役割の1つは、県内に暮らす皆さんの生活と生命に欠かすことのできない「水」を確保することです。下に紹介したダム湖の総貯水量は約

3億8千万㎡になり、横浜スタジアム約1,200杯分に相当します。(※ただし、全量を水道水に利用しているわけではありません)

近年、水道使用量が増える夏期を中心に、全国的に渇水が話題になりますが、県内に水源地を多く持つ神奈川県は、水不足を心配することが少ないとても恵まれた県だと言えます。



道志ダム(奥相模湖)

総貯水量：1,525,000㎡／構造：重力式
コンクリートダム／築造目的：上水道、農
業用水、発電／1955(昭和30)年完成



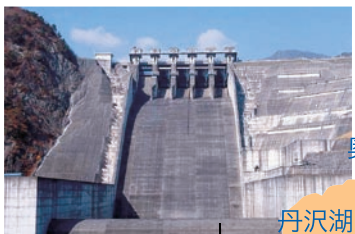
相模ダム(相模湖)

総貯水量：63,200,000㎡／構造：重力
式コンクリートダム／築造目的：発電、
上水道、工業用水道、かんがい用水／
1947(昭和22)年完成



城山ダム(津久井湖)

総貯水量：62,300,000㎡／構造：重力
式コンクリートダム／築造目的：洪水調
節、上水道、工業用水道、発電／1965
(昭和40)年完成



三保ダム(丹沢湖)

総貯水量：64,900,000㎡／構造：土質
遮水壁ロックフィルダム／築造目的：
上水道、洪水調節、発電／1978(昭和
53)年完成

相模湖 津久井湖

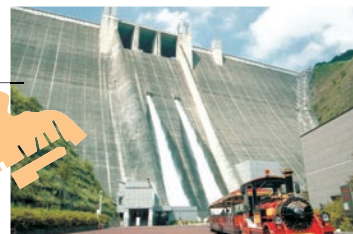
奥相模湖 宮ヶ瀬湖

丹沢湖

神奈川県内のダム

相模川

酒匂川



宮ヶ瀬ダム(宮ヶ瀬湖)

総貯水量：193,000,000㎡／構造：重
力式コンクリートダム／築造目的：上
水道、洪水調節、発電、河川維持用水／
2000(平成12)年完成

皆さんと共に守る水源地

県では、平成19年度から水源の環境保全・再生を目的として、手入れ不足などにより水のかん養(徐々に養い育てる)能力が低下した森林の整備事業や、水源となる相模湖などのダム湖の生活排水の流入による水源汚濁を防ぐため、公共下水道や合併処理浄化槽の整備促進事業などに取り組んでいます。これらの事業は、県民の皆さんにご負担してもらっている水源環境保全税(個人県民

税の超過課税)により行われています。

また、横浜市では、同市の水源の一つである山梨県道志村の水源かん養林の保護・育成を目的とした、道志水源林ボランティア活動を支援するための「水のふると道志の森基金」の設置や、同村の合併処理浄化槽設置事業への助成などに取り組んでいます。同基金は市民や企業からの寄付や、横浜市が商品化したペットボトル水「はまっ子どうし」の売り上げの一部などで運営されています。

次回は、河川から水を取り入れる「取水施設」をご紹介します。

かながわ水 NEWS & TOPICS

水道企業団を構成する県企業庁、横浜、川崎、横須賀の各水道局からのお知らせです。

津久井導水路本格改修に着手！ ～県企業庁は水道水の安定供給に努めます～

県企業庁は、相模川河水統制事業、相模川総合開発共同事業、酒匂川総合開発事業などで、県内の水道供給の基礎となるダムや取水せき、導水路の建設に取り組んできました。

1943年(昭和18年)に完成した津久井導水路は、相模ダムや城山ダムの水を各水道事業者に分水するための重要な施設ですが、60年以上経過して老朽化が進み、内部のコンクリートのひび割れや湧水が著しいため、現在、調査を進め、来年度以降本格的な改修工事に取り組みます。こうした取り組みを通じて、県民の皆さまに安定して水をお届けできるよう努力しています。



水を抜いた津久井導水路
(内径6.0m、長さ約6.3km)

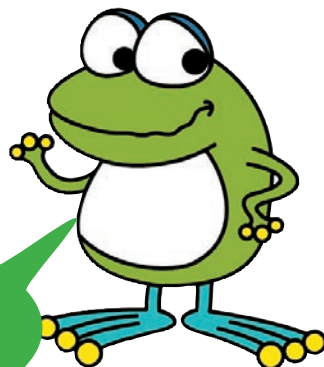


県営水道キャラクター
カッピー

横浜開港150周年！ ～まちの発展とともに歩んできた水道～

2009年6月に横浜は1859年の開港から数えて150周年を迎えます。開港により、当時の横浜には国内外から多くの人が集まり、水の需要が急増しました。これに応えるため、1887年に日本初の近代水道が誕生しました。以来120年余、横浜の水道は度重なる震災・戦災を乗り越え、産業の発展に不可欠な社会インフラとして、横浜の発展に大きく寄与してきました。また、世界の船乗りたちに「赤道を越えても腐らない水」と称された良質の水を横浜港に寄港する船舶に提供し、港の発展とともに歩んできました。

横浜市は、開港150周年を第2の開国・開港と位置づけ、「開国博Y150」をはじめ、さまざまな記念事業を市内各地で開催します。横浜市水道局も、横浜の発展を今日まで支えてきた「水道」の大切さを市民にお伝えしていきます。



横浜市水道局キャラクター
はまピョン

横浜市では開港150周年記念イベントをたくさん開催するよ！みんな遊びに来てね！

生田の天然水 恵水 好評発売中！！

川崎市水道局では、市内唯一の水源地から採れた良質な天然水をペットボトルに詰めました。

ナチュラルミネラルウォーターの「恵水(めぐみ)」は、多摩区に点在する直径6m、深さ15m程度の浅井戸を水源としています。

日常の飲用や災害時に備えた飲料水の確保としてご利用ください。



賞味期限：製造から2年
容量：500ml、1箱24本入り



川崎市水道局
マスコットキャラクター
ウォーターン

(ご購入についてのお問合せ先)
川崎市水道局総務課 TEL.044-200-3097

横須賀の市営水道は、給水開始100周年を迎えました



市営水道発祥
走水覚栄寺裏貯水池

横須賀市営水道が給水を開始したのは1908年(明治41年)12月25日、昨年の12月25日に100年の節目を迎えました。県内では横浜市に次いで2番目、全国でも14番目の、早い時期の開始です。

しかし、横須賀の水道の起源は、さらに30年以上も前にさかのぼります。幕末に、江戸幕府の要請でフランス人技師のヴェルニーが、市内の走水(はしりみず)の湧水を横須賀造船所まで引いたのが始まりです(明治9年完成)。

市営水道発祥の地でもある走水は、四季を通じた市民の憩いの場です。海を望みながらの桜の花見、潮干狩りや海水浴、富士山を眺望しながらの散歩も楽しむことができます。水源地内には走水の湧水を楽しんでいただくための、「ヴェルニーの水」という愛称の水飲み場もありますので、ぜひご利用ください。



走水水源地 春の桜と富士山



走水の湧水「ヴェルニーの水」



参加者約1,000人！ 「かながわ水道フェスタ」 大盛況



横浜市内から参加した子供会のみなさん



フェスタ会場となった相模大ぜき

昨年8月の最終日曜日(31日)、海老名市社家にある水道企業団の取水施設「相模大ぜき」で、「かながわ水道フェスタ」が開催されました。

フェスタ当日は、未明までの記録的な雷雨で、一時は開催が危ぶまれましたが、始まるころには天候も好転し、1,000人近くの県民が参加しました。これまで水道企業団が行ってきたイベント史上、記録的な人出となりました。

フェスタでは、水道にまつわるクイズラリーが行われ、参加者は普段は入ることができない大ぜきからの眺望を楽しんだり、ピオトープで保護されている相模川の貴重な生態系に触れるなど、水道や環境についての理解を深めていました。

また地元特産品や、相模川で捕れた鮎の塩焼きの販売もあり、全て完売するほど大盛況でした。

横須賀市長、三浦市長を招待して、太田和調整池の通水式を行いました

昨年10月1日、水道水の横須賀市方面への一層の安定供給を可能とする施設「太田和調整池」が完成し、その通水記念式典が行われました。

実はこの記念式典、関係者は皆、喜びと共に安堵の気持ちで当日を迎えていました。「太田和調整池」は、相模川で取水し、水道水にした「水」を横須賀市方面へ供給するための広域事業の最後の施設で、三浦半島は未だ解明されていない断層も多く、水道管が途中で予想外の断層帯の中を通過するなど、大変な難工事を乗り越えての完成でした。

式典では蒲谷亮一横須賀市長と吉田英男三浦市長をはじめ、伊波洋之助企業団議会議長ほか関係者100人以上が出席し、記念すべき日を祝して、横須賀市の市木である「大島桜」の植樹式が行われました。また横須賀市の協力のもと、災害時を想定した給水車への給水デモンストラクションなども行われました。



あいさつする蒲谷横須賀市長



「大島桜」の植樹式のもよう

水道企業団施設で テレビドラマの ロケ撮影



スタッフの情熱があふれたロケ撮影

昨年の12月上旬、水道企業団の浄水施設「西長沢浄水場」でフジテレビ系列ドラマ「イノセントラブ」のロケ撮影がありました。

同浄水場の通用門を、若手人気女優の堀北真希さん演じる主人公が、服役中の兄の面会に訪れる少年刑務所の裏口に見立てての撮影でしたが、今回のロケにいくつかの候補の中から選ばれた理由は、侵入者防止等のセキュリティを備えた施設外周の様子が、演出家のイメージに合致したとのこと。

テレビ局の美術スタッフによって「刑務所」に様変わりした浄水場での撮影は、寒空の下でおよそ2時間に及びました。放映時には1分にも満たないシーンのために要した撮影のハードさと共に、作業の効率の良さ、並びに出演者・スタッフの情熱とプロフェッショナルな姿勢がとても印象に残りました。

こうしたロケ撮影等への協力を通じて、少しでも水道企業団に感心と興味を持ってもらうこともPRの一つだと思います。

編集後記

瑞々しい若木を意味する「瑞樹」と、地中から多くの水を吸い上げることで有名な「水木」の意味を水道企業団の「水(みず)」「企(き)」に込めて、今まで以上に「瑞々しい」感性をもった団体として成長していきたいとの願いから、「みずき便り」と命名しました。

広報誌では、県内の水事情や水道事業のあま

り知られていない活動など、県民・市民の目線から取り上げて、さまざまな疑問にもお答えしていきたいと思っています。

また、皆さまからのご意見、ご感想をこれからの水道企業団の取組みに反映させてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。(担当：総務課総務係)



「みずきの花」

神奈川県史上、最悪の渇水

県政史上初、冬の対策本部設置

当時は宮ヶ瀬ダムが完成しておらず、津久井湖(46%)、相模湖(52%)、丹沢湖(44%)、3湖の貯水量平均が史上初めて50%を割り込み、例年(10カ年平均)の88%を大きく下回った。水不足に対処するため1月8日、県と横浜、川崎、横須賀の各市は渇水対策本部を立ち上げた。それに合わせて水道企業団も対策本部を設置し、県と連携して県民に節水を呼び掛けた。

原因は8月からのカラカラ天気

渇水の原因となったのは、8月に台風がコースから外れるなど、まとまった雨が降らなかったことなどが上げられる。8~12月の降雨量が例年の半分以下、酒匂川上流(丹沢湖)にいたっては、395ミリで例年の3分の1以下になっていた。

29年ぶりに「取水制限」始まる

2月に入っても状況は変わらず、事態は深刻化した。2日には3湖の貯水量が40%まで落ち込み、県企業庁は当時の岡崎洋県知事に「県異常渇水対策本部」の設置を要請。19日は県内水道事業体5団体が同様の要請を行い、26日から29年ぶりに5%の取水制限が始まった。制限は3月4日には10%に引き上げられ、使用量減少で各自治体は減収になるなどの影響がでた。

「水」の大切さ、あらためて知る

4月24日に一旦解除になった取水制限も、7月5日から5%、11日から10%と再び行われた。20~21日に大雨によって23日に解除されたが、県民にとっては、あらためて水の大切さを教えられた年だった。

(神奈川新聞社編)



当時の県内ニュース

- ・芸術家の岡本太郎さん死去(1月)
- ・病原性大腸菌O157による食中毒で県内でも死者。またO25も猛威ふるう(7月)
- ・日本と韓国が共催するサッカーの2002年ワールドカップ(W杯)の国内開催地に横浜市が選ばれる(12月)

温泉でくつろぎながら大自然を満喫...



「美人の湯」とも言われています。泉質：アルカリ性単純泉（筋肉痛、神経痛、冷え性等に最適）

武田信玄の隠し湯
西丹沢中川温泉郷
うぐいすの里

丹沢荘

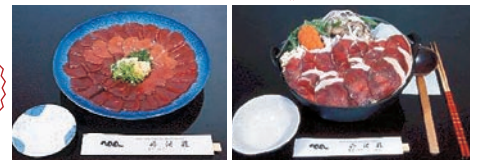
【ご予約・お問い合わせ】 ☎ 0465 (78) 3631

1泊2食付

7000円~(税込)

足柄上郡山北町中川527-1 <http://www.7.ocn.ne.jp/~tanzawa/>
小田急線「新松田駅」等送迎いたします。 ※事前にお申し込み下さい。

<西丹沢名物料理 鹿刺・猪鍋>



丹沢湖 清流と四季折々の大自然
紅葉・新緑



心地良い温泉と季節のお料理を、
アットホームなおもてなしの中で、
心ゆくまでお楽しみ下さい。

発行：平成21年1月
神奈川県内広域水道企業団

神奈川県横浜市旭区矢指町1194番地
TEL.045-363-1111(代表) FAX.045-362-7212
<http://www.kwsa.or.jp> mizuki@kwsa.or.jp

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています



音と映像で企業団を紹介しています。